

保育実践を支える 「対話型マップ記録」



～教師同士が対話する記録～



「対話型マップ記録」の誕生

悩みや課題



今までも、掃除の時間や職員室に戻ってきた時間に、教師同士で対話することを大事にしてきた。しかし、勤務時間の違いやそれぞれ他の仕事に追われてしまうことで、話す時間が十分にとれないと感じている現状もあった。

また、他の教師の考えをもっと知りたいという思いや、会話だけでは、具体的な内容を後から思い出せないこともあったため、記録の方法を試行錯誤してきたが、なかなか自分たちの保育に合う記録にはならず、続かないという経緯があった。

参考にした先行研究

イギリスのメイドリー保育学校の教師の対話と記録

保育後に各教師が写真やメモ、作品などを持ち寄り、語り合う。その内容を別の教師がスケッチブックに記録し、短時間の振り返りで議論を重ね合わせ、次の保育実践や子どもとの関わりを共有していた。

毎日継続して実施する
必要性、対話する
内容を記録する大切さに
気づいた

お茶の水女子大学いずみナーサリーの「語り合うように書き合う記録」(日本保育学会、2019)

その日の記録として、1枚の紙に全員の保育者が書き連ねていく記録を作成していた。書ける人から、感じたことや悩んでいることなども含めて、書きたいことを書き連ねていき、書かないときがあってもよいと、記録を完成させることを目的とはしていないものだった。

面と向かって話さなくても、
記録を通して対話関係を
築けるのではないか

どちらも、時系列やその日の出来事を網羅して書く記録ではなく、対話の変遷が見えるような記録である。

1枚の用紙に学年の教師たちで、子どもの遊びや思い、感じたことなど印象に残ったことを書けるようにしたいと考えた。その日のことが想起しやすいように、毎年公開保育研究会で使用していた園舎と園庭のマップを中央にのせた記録用紙を活用することとした。

「対話型マップ記録」の実際

枠のない記録

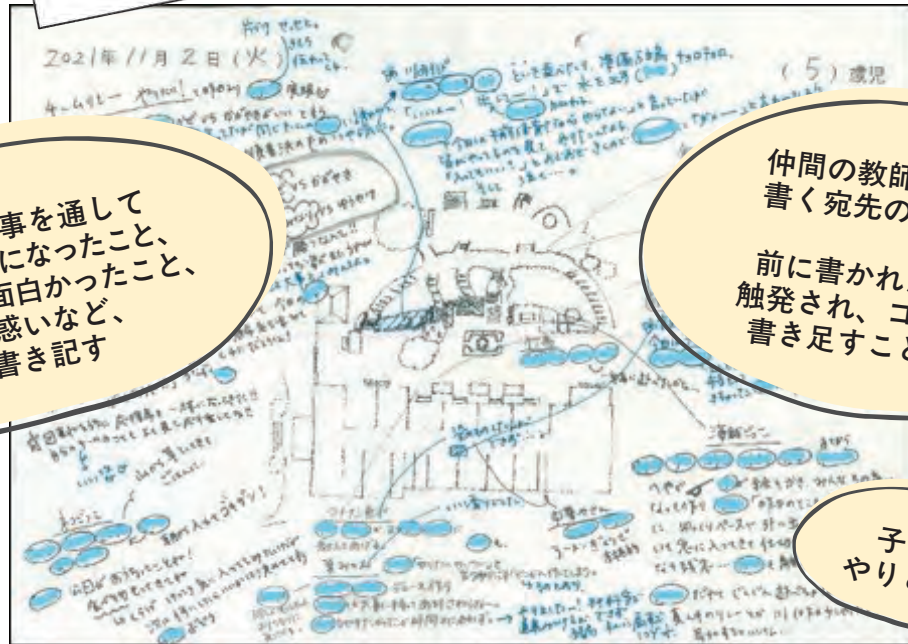
A4用紙 学年で1日1枚
園舎と園庭のマップを
中央にのせている

手書き

同学年(各2クラス)の
教師(担任2名と非常勤
講師1~2名)で、退勤時間の
早い非常勤講師が
先に書くことが多い



その日の出来事を通して
感じたこと、気になったこと、
伝えたいこと、面白かったこと、
悩みや戸惑いなど、
自由に書き記す



仲間の教師に向けて
書く宛先のある記録

前に書かれたことに
触発され、コメントを
書き足すこともある

子ども同士の
やりとりを残す

一斉に書くことはせず、
それぞれの仕事の
タイミングで書く

ペンが進まない時、
時間のない時には、
無理には書かなくてもよい

提出はせず、
職員室で手に取って
見られるように
置いている

評価は受けない

「対話型マップ記録」研究の変遷

動き出すドキュメンテーション1・2
2020 日本保育学会

子どもを真ん中において、そこに関わる全ての大人が子どもの育ちを支えていくための、保育の伝え方、表し方を探りたいと私たちは考えた。そこで、海外の保育施設への視察や、他園での試みなどをヒントに、本園独自のドキュメンテーションの作成を模索することとした。

保護者との共有においては、子どもの育ちを、身の回りのもの、人、こととの関わりの中で捉えたいことが伝わるように、子ども全員を網羅するのではなく、園の暮らしが伝わるような写真とそこに関わる教師の思いや願いをコメントで綴り、掲示を作成をした。またそれを見た保護者が付箋で自由にコメントを寄せられるようにし、双方向的なやりとりができるような工夫を試みた。

また教師間の対話的な関係づくりを促進するために、これまで各担任に任されていた保育記録を、同じ学年で一緒に保育する者同士が記録上で対話することを意識して改善を試みた。

研究を通して、ドキュメンテーションの完成度を高めることよりも、作成のプロセス自体に意味を見だし、対話することに意義があると明らかになった。

「対話」の重視



日本でのドキュメンテーション対話の意義に着目して
2022 EECERA (ヨーロッパ幼児教育学会)

遊びや暮らしのプロセスが 見えてくる記録

本園独自のドキュメンテーション(毎日の保育記録)を「対話型マップ記録」と命名した。記録を実際に書いている教師へのインタビューを元に、「対話型マップ記録」の特徴、意義について分析を試みた。

「対話型マップ記録」は、子どもが始めた遊びやその日の出来事が、どのように生まれ、つながり、消えていくのかを捉えることができる。そして、複数の教師が見たこと、考えたことを紙面上で対話するように書き重ねていくことで、子ども同士の関係性をより一層多面的に捉えることができ、また子ども理解の促進につながる事が明らかになった。



EECERA 2022
Conference

「対話型マップ記録」に関連したその他の本園の研究の変遷

学会発表など

リーフレット・紀要

研究会

* 年度表記

2019 日本保育学会 ポスター発表
保育をめぐる、保育がめぐる
—3施設がともにある環境をいかして—

2020 日本保育学会 ポスター発表
保育をめぐる、保育がめぐる(2)
—3施設がともにある環境をいかして—

2022 日本保育学会 自主シンポジウム
子どもを真ん中に保育を考える
—おもしろさを語りあうことから—

2022 日本保育学会 口頭発表
保育のブランドデザインを考える2

2020 リーフレット作成
保育手帖 その1
子育て中のおうちのかたへ

2021 リーフレット作成
保育手帖 その2
子育て中のおうちのかたへ

2022 リーフレット作成
保育手帖 その3
子育て中のおうちのかたへ

2019 公開保育研究会

オンライン
2021 公開保育研究会(中止)

2022 公開保育研究会

対話型マップ記録の開発

2023 PECERA (環太平洋乳幼児教育学会)

様々な関係性の中で
個々の経験や育ちを
捉えようとする記録



「対話型マップ記録」は学年ごとに1日1枚記録してきたが、本研究では学年間のつながりについて考察を試みた。そこで、3学年の子どもが関わり合った「白雪姫」の劇遊びに着目し、この遊びに関する3学年の記録を振り返り分析した。

記録の分析からは、同じ遊びの中でも一人ひとりが経験していること、感じていることは様々で、年齢相応の育ちがあることが明らかになった。学年毎に分けて記録は書いているが、保育の中では異年齢の関わりが子どもの世界を広げることを理解し合い、互恵性のある豊かな関わり合いを支えられるよう教師間で連携することの大切さも、改めて確認することができた。

幼稚園の暮らしの中では日々、様々な遊びが生まれ、時にはつながったり、形を変えたりしていく。時間や空間、様々な人たちの関係性などをも「対話型マップ記録」が視覚化し、保育を支えていることが明らかになった。

Development of interactive map recordings and documentation

R. Kodama, Y. Takahashi, H. Sato and M. Sugiura (Ochanomizu University Kindergarten, Tokyo, Japan)

1. Introduction
The aim of this study was to explore the effectiveness of interactive map recordings in documenting children's play. It is assumed that children's play is a complex and dynamic process, and that it is important to capture the richness of their experiences and the relationships between them. Interactive map recordings are a promising way to achieve this, as they allow children to express their thoughts and feelings in their own words and drawings, and to share them with others.

2. Method
This study involved a group of children from a kindergarten in Tokyo, aged 3 to 4 years old, who participated in a play activity over a period of 4 weeks. The children were encouraged to create their own interactive map recordings, which were then shared and discussed with the other children and the staff.

3. Results and Discussion
The results of the study showed that the children were able to create meaningful and detailed map recordings, and that they were able to share their experiences and feelings with others. The staff also found that the map recordings provided valuable insights into the children's play and their relationships with each other.

4. Conclusion and Implication
This study suggests that interactive map recordings are an effective way to document children's play and to support their learning and development. It is important for staff to create a supportive environment for children to create and share their map recordings, and to use them as a tool for reflection and discussion.

PECERA 2023 Conference

保育計画を支え、
応答的な保育につながる記録

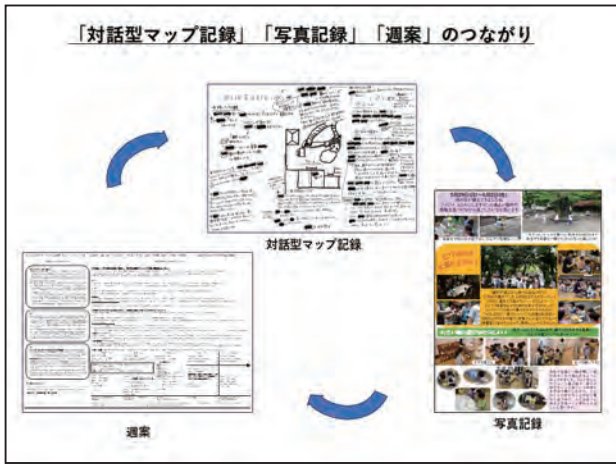
対話型マップ記録による省察

2024 日本保育学会

本研究では、ある週の保育の様子が、「対話型マップ記録」「写真記録」「週案」の中にどのように記録されているかを分析した。

「対話型マップ記録」で子どもの姿を対話的に記録することで教師間で思いや悩みを共有できていること、それが「写真記録」作成につながると共に保護者とも共有されていること、そして翌週の保育計画である「週案」につながっていることが明らかになった。

このことから、対話を重ねてつくる様々な記録（「対話型マップ記録」、写真記録）が保育計画を立てる際の根拠となり、即興応答的な保育を営むことにつながっていることが明らかになった。



2023 日本保育学会 自主シンポジウム
子どもを真ん中に保育を考えるⅡ
一遊び心を手がかりにー

2023 日本保育学会 自主シンポジウム
子どもを真ん中に保育を考えるⅢ
一ぐちゃぐちゃと過ごす中で思うこと
・4歳児と保健室ー

2023 日本保育学会 ポスター発表
保護者と副園長とで語り合うことの意味を探る
一保護者・保育者の変容に着目してー

2024 日本保育学会 自主シンポジウム
子どもを真ん中に保育を考えるⅣ
一やっぱり子どもはおもしろいー

2023・2024年度研究紀要
「つくる」がうまれる暮らし

2023 大和郡山市教育研修会
「子どもを真ん中に保育を考える～びわのおはなし～」

2023 公開保育研究会

2024 公開保育研究会

子どもの言葉を通して広がるつながり 対話型マップ記録の実践から 2024 PECERA (環太平洋乳幼児教育学会)

記憶に残り
広がり、つながる記録

これまでの研究では教師、保護者など、子どもを真ん中に、そこに
関わる大人同士の対話について主に考察を重ねてきたが、本研究では
子ども同士の対話についての考察を試みた。そこで「対話型マップ
記録」に書かれた子どもの言葉に着目して分析を行った。
子どもの言葉、子ども同士のやりとりを記録すると、その時の遊び
の情景が浮かび上がる。そして、記録を通して、子どもの遊びや
暮らしが印象深い出来事として教師の意識の中に残る。記録が記憶
として教師の中に蓄積され、子どもの世界の豊かさや面白さを一緒
に語り合う教師間の対話につながる。そのことは、本園の教師間
にとどまらず、保育を共に考える他園の教師とも共有する可能性を
もっていることも明らかになった。



PECERA 2024
Conference

対話型マップ記録の提案 2025 日本保育学会

さらなる対話を
支える記録

本研究では、この記録を書き続けてきた私たちが改めて自らを振り返り、
教師の心もちにもたらしているものを分析し、「対話型マップ記録」の意義
やそれが保育にもたらす影響について考えた。
記録を書き重ねる中で、教師間の対話的な関係が構築されていく。また
他者から新しい視点を得ることで教師自身の子どもの捉え方や保育観が
揺さぶられ、考え続けることが促されることが明らかになった。
記録がさらなる対話を生み出し、保育を支えていることを再認識するこ
うができた。

対話型マップ記録の提案

◎高橋順子 佐々木麻美 佐藤真子 田村結 紀野真子 林真理子 渡辺美奈 (お茶の水女子大学附属幼稚園) 小笠原子 (お茶の水女子大学)

はじめに
本園では、対話型マップ記録という実践を推進している。これは、子ども同士の対話を記録し、教師の意識に残るよう工夫した記録である。対話型マップ記録とは、子ども同士の対話を記録し、教師の意識に残るよう工夫した記録である。対話型マップ記録とは、子ども同士の対話を記録し、教師の意識に残るよう工夫した記録である。

対話型マップ記録とは
対話型マップ記録とは、子ども同士の対話を記録し、教師の意識に残るよう工夫した記録である。対話型マップ記録とは、子ども同士の対話を記録し、教師の意識に残るよう工夫した記録である。

実践の記録
記録① いろいろな遊びを楽しむための子どもたち、記録② 記録③ 記録④ 記録⑤ 記録⑥ 記録⑦ 記録⑧ 記録⑨ 記録⑩ 記録⑪ 記録⑫ 記録⑬ 記録⑭ 記録⑮ 記録⑯ 記録⑰ 記録⑱ 記録⑲ 記録⑳ 記録㉑ 記録㉒ 記録㉓ 記録㉔ 記録㉕ 記録㉖ 記録㉗ 記録㉘ 記録㉙ 記録㉚ 記録㉛ 記録㉜ 記録㉝ 記録㉞ 記録㉟ 記録㊱ 記録㊲ 記録㊳ 記録㊴ 記録㊵ 記録㊶ 記録㊷ 記録㊸ 記録㊹ 記録㊺ 記録㊻ 記録㊼ 記録㊽ 記録㊾ 記録㊿

対話型マップ記録が構築できる理由
～様々な記録が対話型マップ記録についての語りから～

おわりに
～だからこの記録を提案する～

2025 日本保育学会 自主シンポジウム 2025 全国公立幼稚園・こども園教育研究協議会
子どもを真ん中に保育を考えるV 東京大会 分科会
～子どもの「なる」姿をめぐる～ 子どもとともに育つ～対話的な記録や語り合いを通して～

2025 日本教育学会ラウンドテーブル
「つくる」という営みに見出す保育の可能性
～お茶の水女子大附属幼稚園での実践を
手がかりにして～

2025 オンライン併用公開研究会
お茶幼カフェ～保育記録どうしてる？～

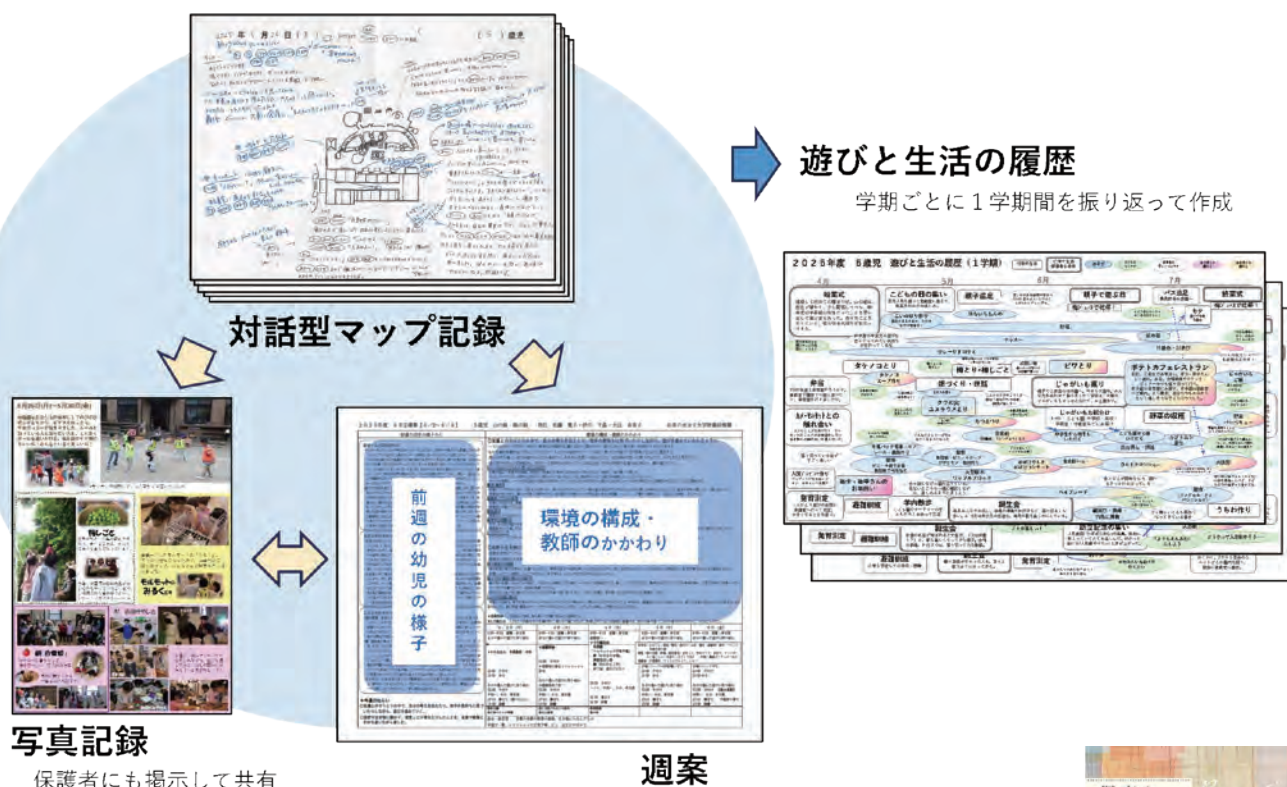
2025 公開保育研究会

「対話型マップ記録」と保育実践のつながり

「対話型マップ記録」を続けてきた教師たちに、意見・感想を聞いてみた。

- マップが中央にあることで、子どもたちのその日の姿や遊びの様子を思い起こしやすく、どこで起こった出来事なのか書き記しやすい。
- 3人で書き合うことで、自ずと子どもたちの遊びや思いのプロセスが見えてくる。
- 子どもの思いや子ども同士の関係に目を向けられ、一人一人の育ち、周りとの関係性を捉えていくことにつながっていく。
- 担任と非常勤講師の3人で書き合うことで、一緒に保育をしているという一体感や安心感が感じられ、直接語り合うことを躊躇する保育の悩みや戸惑いなども書くことで表現しやすい。
- 教師の関わりや思いを知ることができ、翌日の保育につながる。

このような効果を得られたことにより、週案の「前週の幼児の様子」や「環境の構成・教師のかかわり」が考えやすくなった。また、保護者に伝えたい内容も見えてきたため、一週間ごとに、掲示している写真記録を作成する上でも役立っていることや、学期ごとに作成する「遊びと生活の履歴」を書く際にも、遊びのプロセスが見えやすくなることに改めて気づいた。「対話型マップ記録」が保育実践とつながっていることを実感している。



写真記録
保護者にも掲示して共有

週案

保育の中で子どもたちの姿や様々な関わりを捉え、一人一人を理解しようとするとき、どのように日々の記録を書いたら良いかと試行錯誤してきた。

「対話型マップ記録」を書くようになり、その日の保育で心に残ったことだけでなく、子どもの表現の意味が捉えられなかったり、自分の関わりに迷いを感じたりしていることも書き記し、他の教師と共有できるようになった。子どもの思いの本当のところはわからない。しかし、わからなさを抱えたまま考え続けられるのは、教師間の対話があってこそだ。記録を書くことが、また次の教師間の対話へとつながり、保育を支えていると感じている。



『保育を綴る
—対話型マップ記録の提案—』

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会
萌文書林、2025. 9刊行



表紙絵 管原 以津香



〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

Tel : 03-5978-5881 E-mail : youkenkyu@cc.ocha.ac.jp